学校番号	３０３６

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	理数数学Ｃ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「数学Ⅲ」（数研出版）「数学Ｃ」（数研出版）						
副教材等	「新課程 教科書傍用 サクシードⅢ＋C」（数研出版） 「ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C（受験編）」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用ノート、問題集用ノートを用意してください。授業用ノートは授業の板書を写すだけでなく先生の説明のポイント等もメモしてください。問題集用ノートは問題集を自主的にやるためのノートです。
・授業を大切にし、基礎をしっかり固め、基礎に基づいて考える習慣を身に付けましょう。
・わからないことはその日のうちに解決するようにしましょう。わからないことを残すと次に習うことが理解できない場合もあります。
・問題集の問題はまず自力で解いてみましょう。ただ、答えを求めるだけでなく、途中の式や考え方も書くようにしましょう。また、各自で答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切な作業です。
・スタンダードはしっかり予習して授業に臨みましょう。

2　学習の到達目標

数学Ｃの単元である２次曲線・複素数平面を理解し、さらに数学全般についての基礎的な知識や技能を再確認します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する力を身に付けることを目標とします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・数学を活用して事象を論理的に考察することができる。 ・事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察することができる。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Ｃの３段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Ｃの３段階）及び評定（１～５の５段階）にまとめます。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価の方法		
				知（a)	思（b)	主（c)
1学期	統計	期待値と分散	a:確率分布・統計的な推測について理解している。 b:標本から確率分布を見いだし、その分布から推定したり、仮説検定したりすることができる。統計的な推測の考えを問題解決に活用することができる。 c:統計における日常の事象や社会の事象などを通して、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	中間考査 期末考査 小テスト	中間考査 期末考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	授業観察 パフォーマンス課題 レポート課題 ノート 振り返りシート
		二項分布・正規分布				
		母集団と標本				
		推定・検定				
	式と曲線	2次曲線	a:方程式が表す2次曲線の概形がわかる。 極座標が表す点の位置がわかり，極方程式が表す図形がわかる。 b:x,yの2次方程式を変形し、その方程式が表す図形を考察することができる。複雑な方程式で表された2次曲線を平行移動を利用して考察することができる。 c:2次曲線を解析幾何学的な方法で考察しようとする。			
		媒介変数表示と極座標				
	複素数平面	複素数平面	a: ド・モアブルの定理を利用して、複素数のn乗を求めることができる。 b:極形式の有用性を理解し、乗法、除法の図形的意味を考察することができる。 c:複素数平面を考えることで、複素数の図形的側面を考えようとする。			
		複素数の極形式とド・モアブルの定理				
		複素数と図形				

2・3学期	ベクトル	ベクトルの 基本・内積 ベクトルと平面図形 ベクトルと空間図形	a:ベクトルの内積の定義がわかり，計算ができる。 b:3点が同一平面上にある条件など，図形の位置関係をベクトルで表現することができる。 c:ベクトルを座標平面・座標空間と関連づけ、ベクトルを成分で表現しようとする。	中間考査 期末考査 小テスト	中間考査 期末考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	授業観察 パフォーマンス課題 レポート課題 ノート 振り返りシート
	数列	種々の数列 漸化式 数学的帰納法	a: 色々な数列の和が求められる。 b:数の並びからその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 a:具体的な場合で実験をし，列の規則性を発見しようとする。			
	整数の性質	数の理論 不定方程式	a:色々な不定方程式を解くことができる。 n進法の整数を10進法で、10進法の整数をn進法で表すことができる。 b: 整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させて考えることができる。 c:互助法の原理について自ら考えようとする。			
	場合の数と確率	順列 組合せ 確率	a:条件つき確率の定義がわかり，それを用いた計算ができる。 b 特殊な条件での順列や組合せについて，見方を変えたり別なものに対応させたりして場合の数を求めることができる。 c: 事象を区別する，しないことによる違いやそれによる影響について考えようとする。			
	積分法の応用	面積 体積 種々の量の計算	a: 積分法の応用について、問題を解くことができる。積分法の応用について理解し、基礎的な知識を身につけている。 b:積分法の応用について、教科書で学んだ内容を活用して考察できる。 c:積分法の応用に関心をもち、それらを様々の問題に活用しようとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度